

細見美術館

1615

琳派四百年古今展

— 細見コレクションと京の現代美術作家 —

近藤高弘

名和晃平

山本太郎

Takahiro Kondo

Kohei Nawa

Taro Yamamoto

2015

主催：細見美術館 京都新聞 後援：琳派四百年記念祭委員会
休館日：毎週月曜日（祝日の場合、翌火曜日）

開館時間：午前10時～午後6時（入館は、午後5時30分まで）

入館料：一般 1,100円（1,000円） 学生：800円（700円）

※()内は20名以上の団体料金

会場：細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3

TEL: 075-752-5555 <http://www.emuseum.or.jp>

2015年5月23日[土]—7月12日[日]

THE HOSOMI COLLECTION AND THE CONTEMPORARY ARTISTS OF KYOTO

琳派四百年古今展

— 細見コレクションと京の現代美術作家 —

琳派—古今展 —1615—2015

琳派四百年 古今展 - 細見コレクションと京の現代美術作家 -
THE HOSOMI COLLECTION AND THE CONTEMPORARY ARTISTS OF KYOTO

2015年5月23日[土]—7月12日[日]

琳派とは、時を超えて共有され、その時、その時代において新たな美を生み出してきた創造力の結晶。

2015年は、琳派の祖とされる本阿弥光悦が洛北の鷹峯を拝領してから四百年にあたります。

本展は、京都ゆかりの気鋭の現代美術作家が、細見コレクションから共演してみたい作品を選び、自作とのコラボレーションに挑んだ細見美術館初の試みとなります。

細見コレクションの「古」と、現代美術作家の「今」とが織り成す美のダイナミズムをお楽しみください。



近藤高弘
(こんどうたかひろ)



撮影：表恒匡 | SANDWICH

名和晃平
(なわこうへい)



山本太郎
(やまもとたろう)

1958年京都市生まれ。陶芸・美術作家。陶の素材・技法を基軸に、土・ガラス・金属などの立体・平面作品を制作。また、1997年から奈良・天河神社など各地にて野焼きなどのアースワークを継続。2011年3.11以後「HOTARU」「命のウツワ」アートプロジェクトを行う。エディンバラ・カレッジ・オブ・アート・マスターコース修了、文化庁派遣芸術家在外研修員、京都市芸術新人賞受賞、Inglis Allen Masters 賞受賞など。主なパブリックコレクションに、ナショナル・ミュージアム・オブ・スコットランド、メトロポリタン美術館、ボストン美術館、ミネアポリス美術館など多数。

1975年大阪府生まれ。彫刻家、京都造形芸術大学准教授。独自の「Cell」という概念を機軸にビーズ、プリズム、発泡ポリウレタン、シリコーンオイルなど様々な素材とテクノロジーを駆使し、彫刻の新たな可能性を拓げている。現在、自身がディレクターを務めるクリエイティブ・プラットフォーム「SANDWICH」において、アート、建築、デザインなど多岐に渡る活動を行う。第14回アジアン・アート・ビエンナーレ・バングラデシュ2010最優秀賞受賞、平成23年度京都市芸術新人賞受賞など。

1974年熊本生まれ。秋田公立美術大学准教授。京都造形芸術大学在学中の1999年に、寺社仏閣とファーストフード店が至近距離で混在する京都にインスピレーションを受け、伝統と現代、異質な文化が同居する「ニッポン画」を提唱。日本の古典絵画と現代の風俗が融合した絵画を描き始める。近年は能楽の影響もあり、古典文学の物語性が題材に加わる。その作風は現代の琳派とも評され、琳派400年記念祭の今年注目の作家の一人。平成26年度京都市芸術新人賞受賞、平成26年度京都府文化賞奨励賞受賞など。



琳派400年関連イベント

RIMPA サロンⅢ「細見琳派の魅力—尾形光琳—」6月5日(金)

講師：岡野智子（当館上席研究員）※事前申込制・有料。詳細は <http://www.emuseum.or.jp>

次回展予告

夏季特別展「細見美術館アートキャンパス2015」7月18日(土)～9月13日(日)



- ① 重要文化財
金銅春日神鹿御正体
② 尾形乾山 色絵唐子団筆筒
③ 神坂雪佳 金魚玉図 (部分)
※いずれも細見美術館蔵



- 市バス「東山二条・岡崎公園口」下車、徒歩3分。
●市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、徒歩5分。
●地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩10分。
ご来館には公共交通機関をご利用下さい。

細見美術館
<http://www.emuseum.or.jp>